



今年こそ総会等を開催



川西会々長
森田 光雄
(大塚)

新年明けましておめでとうござい
ます。会員の皆様には、健やかな新
年をお迎えのこととお慶び申し上げ
ます。

新型コロナウイルスが発生して3年が経ち
ますが、未だに衰えを見せず、現在
は第8波と言われています。ウイズ
コロナ時代がはつきりした状況で、
今年こそは行動制限がない場合は感
染対策に万全を期し、総会や芋煮会
の開催、黒べこ祭りなどの川西町行
事への参加をやり遂げようと思いま
す。

マイナンバーカードの取得が事実
上義務化されようとしています。現
在の健康保険証を廃止してマイナン
バーカードに一本化する政府の方針
によって、カードは「あると便利」
から「ないと不便」へ変わろうとし
ています。現在もテレビCMや様々

なポイント付与で
取得者を増やそう
としています。取
得率は6割弱にと
どまっています。情
報管理への不安や

そもそも法律では任意取得なのに半
強制となることへの不信感もあるよ
うです。私が住んでいる市では、市
独自でポイントを付与する通知が来
ました。休日にかかわらず様々な公
共施設等での勧誘を行っていますが、
漏れ聞くとところによるとカードの普
及割合が来年度の地方交付税に影響
する？とあつては真剣にならざるを
得ない状況かと思われれます。

私事ですが、昨年十一月、コロナ
に感染しました。5回目の接種を終
えたという安心感で飲食する機会も
少し増えていました。

感染者の割合は全国平均で5人に
1人、東京都で3.5人に1人なの
でいつ感染してもおかしくない状況
です。少し体験談をすれば、言われ
ていたように最初は風邪と同じ症状
でしたが、顧みるとのどの痛みと痰
が特にひどかったような気がします。
皆様も十分に気を付けて過ごしてい
ただきたいと思えます。

結びに、今年一年が皆様にとりま
して健康で充実した素晴らしい年
になりますようお願い申し上げます。

互近助の力



川西町長
原田 俊二
(中郡)

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様にはご清祥にて新年を迎
えられたこととお喜び申し上げます。
昨年は豪雪に始まり、酷暑、豪雨
と経験したことの無い自然災害に見
舞われました。被害は甚大でしたが、
町民や職員は懸命に復旧活動に取り
組みました。そして建設業協会など
事業者、たくさんのボランティア、
災害協定を結ぶ全国川西会議や町田
市さらに県内市町村からも職員の応
援をいただき、復興の大きな力とな
りました。紙面をお借りし、ご支援
いただいた皆さんに感謝申し上げます。

災害が大規模で防災対策の強化
も必要なため復旧工事は長期間とな
ります。農業被害は春の作付けが間
に合うように取り組んでいます。
今回の教訓は「災害はどこでもお
きる」ということです。ゲリラ豪雨、
線状降水帯など局地的な豪雨により
思いがけない災害に遭遇することが
あります。地震を始め災害を他人事
とせず身の回りにどんな危険がある
のか、どんな準備や行動が必要なの
か考えておくことです。自力で身を

守ることと合わせ隣近所の助け合い
も大事です。防災アドバイザーの山
村武彦さんから「災害に強いまちづ
くりは互近助の力」と指導をいただ
いており、いざという時に頼りにな
るのはお隣さんです。人的被害がな
かったことが救いでしたが災害犠牲
者を出さないことが復興に向けて一
番大切なことです。正月早々恐縮で
すが、安全安心はまちづくりの大前
提ですので肝に銘じて頑張っていま
います。

皆さんの記憶にある町の風景のシ
ンボル、旧役場庁舎の煙突がなくな
りました。解体工事が順調に進み掘
点施設整備の準備に入ります。町の
強みである公立置賜総合病院周辺の
開発も順調に進み、春にはスーパ
ーがオープン、分譲した宅地に住宅建
設が始まります。国道のバイパス整
備や米沢市との道路整備が今年完成
を迎えますので、置賜の中心に位置
する川西町の存在意義は一層高まり
ます。今後は小松地区の活性化や町
全体の均衡の取れた地域づくりに力
を尽くします。コロナ禍を克服し皆
さんと交流が再開されることを期待
しています。町も夏まつりや黒べこ
祭りなどイベントを復活し活気を取
り戻してまいりますので、変わらぬ
ご支援をよろしく願います。
皆さん元気に頑張ります。

新年のご挨拶



川西町議会議長
鈴木 幸廣
(中郡)

新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が止まらない昨今、ロシアによるウクライナへの侵攻が始まり世界中の燃料の不足・食料不足・物価高騰と暮らしにくい状況の中、東京川西会会員の皆様方にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年の八月三日からの大雨により本町は甚大な被害を受けました。24時間の降水量が385.5ミリに達しダリヤ園直下のため池(鏡沼)が決壊し小松地区に大きな被害をもたらしました。

町内全域の住宅被害は半壊・床上及び床下浸水合わせて377棟、非住家の被害は569棟、農作物の被害450.5ha、道路や河川の被害も多数で被害総額50億2千万円ほどになりました。国より激甚災害の認定を受け現在復旧・復興に向け頑張っている状況であります。東京川西会の会員皆様には、ご心配をお掛けしておりますが、必ずや、郷土川西町は復興しより良い町になるよ

う町民一同協力しあって作り上げてまいります。

また、旧役場庁舎の解体工事も着々と進んでおり、跡地には地域振興拠点施設の建設も実施設計段階に入りました。

結びに、会員皆様にとりまして素晴らしい年であることを心からご祈念しご挨拶いたします。

就任のご挨拶



川西町副町長
鈴木 清隆
(小松)

昨年十月、山口前副町長からバトンを受け、副町長に就任した鈴木と申します。私は、町職員として三十七年間勤務、二年半前に定年退職し再任用職員として引き続き役場に勤務しております。町長から副町長の打診を受け、長年お世話になった町に恩返しをしたいと思い、分不相応ではありますがこの職を引き受けました。

職員時代は、まちづくり課長として役員会や総会に向いて東京川西会の皆さんと親しくお付き合いをさせていただきましたし、産業振興課長時代も秋川溪谷での芋煮会に材料

を持参し、多くの方々と交流をさせていただきました。今後、改めて会の集まりに顔を出す機会も多くなることと思えます。どうぞお見知りおきのほどをよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスによる人流の停滞やウクライナ戦争、急激な円安による経済活動の停滞、エネルギーや物価高などの影響が私たちの生活に重くのしかかっています。

東京川西会の活動も多分に漏れず各種事業を軒並み休止せざるを得ず、会の活動維持も厳しい状況下にあるものと思えますが、ふるさと川西を思う気持ちだけは途切れることがないことを切に願います。

結びに、会員各位の益々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ就任の挨拶いたします。

新年のごあいさつ



川西町教育委員会
教育長
小林 英喜
(小松)

新年あけましておめでとうございます。東京川西会の皆様方には、健康やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

商品の発送承ります

かわにしのいいものを集めた『かわいい』

かわにし 森のマルシェ



〒999-0122
山形県東置賜郡川西町大字中小松2534
TEL 0238 (42) 6664 FAX 0238 (42) 6665

信頼を基に地域を開発する

川西町商工会

〒999-0121
山形県東置賜郡川西町大字上小松1736-2
電話 (0238)46-2020 Fax (0238)46-2022
E-mail:kawanisi@shokokai-yamagata.or.jp

私は、四月より小野庄士前教育長の後任として教育長を拝命いたしました小林英喜と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

川西町では、平成二十九年度末に高山小学校が中郡小学校に、東沢小学校が小松小学校にそれぞれ統合され、現在、六つの小学校に六百名の児童と川西中学校に三百四十九名の生徒が学んでいます。

コロナ禍で前倒しされたGIGAスクール構想により、全児童生徒にタブレット端末が配備され、教育の在り方や授業の様相も昔とはだいぶ違ってきました。それでも地域の人たちや自然に学び、故郷を愛する心を育む教育は欠くことができません。浅学菲才の身であります。一地域づくりは人づくり」と肝に銘じ、微力を尽くす所存でございます。

結びに、貴会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



川西町観光協会会長
渡部 順一
(小松)

新年のご挨拶

明けましておめでとうございま

す。会員の皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。又日頃から当協会に多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、川西ダリヤ園は「天」から大きな贈り物を二つ頂きました。一つは、開園間もない八月三日の大雨です。園の大部分が冠水し土砂が流れ込みそのまま休園になりました。多くの方からのアドバイスやボランティア作業により花も回復して九月二十一日再開することが出来ました。皆様本当にありがとうございます。

見事に花も咲き揃い発色も良かった十月下旬、二つめの贈り物が静かに園に舞い降りてきました。近年は無かった厳しい霜です。三日程連続して降り、花や葉は忽ち茶色になってしまいました。花は一輪残らず摘み取りましたので十一月三日の切花収穫デーは中止になりました。掘り上げた球根は、倉庫の中で保管され来春の出番まで休息の時にあります。

今年、ダリヤ園に素敵な贈り物を期待します。それはお客様笑顔であり、「ブラボー」の声です。世の中には、まだまだコロナ感染が終息しませんが、困難を乗り越えた花を見に来て下さい。今年はずきぎ年にふさわしく皆様の更なる飛躍、発展をご期待し新年の挨拶いたします。

年頭のごあいさつ



川西町商工会会長
寒河江 輝文
(吉島)

新年明けましておめでとうございませう。東京川西会々員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、収束がなかなか見えない新型コロナウイルス感染症により過去に経験したことのない経済面でのリスクがあり、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていく中で、ウイズコロナ、アフターコロナを見据え商工会では日々経済活動の支援を行っております。

そんな中「東京川西会総会や地酒と黒べこまつり」等も残念ながら中止となりました。ご案内のとおり、当町では人口減少や高齢化の広がりによる、消費活動の低迷、昨年の八月三日から四日にかけて降り続いた記録的な豪雨による豪雨災害やコロナ禍も追い打ちとなり町内経済は大変厳しい一年でありましたが、「ふるさと川西」を穏やかで活気溢れるまちにと、令和の時代に相応しい活動

川西町浴浴センター まどか
〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松 5095-36
TEL 0238-42-4126 FAX 0238-42-4100
http://www.k-madoka.co.jp/

を行うべく商工会役職員並びに
会員一同力を合わせて頑張る所
存でございます。

東京川西会々員の皆様のご健
勝と、益々のご発展を心よりご祈
念申し上げ年頭のご挨拶といた
します。

新年のごあいさつ



山形おきたま農業協同組合
川西地区代表支店長
小形 喜代之
(吉島)

新年あけましておめでとうござい
ます。会員の皆様におかれましては、
健やかに新春を迎えられましたこと
とお慶び申し上げます。また、日頃
より当JA事業各般にわたり、特段
のご理解ご協力を賜り心から御礼申
し上げます。

令和四年を振り返りますと、八月
三日・四日の豪雨災害にて多種にわ
たり、川西町の農作物に甚大なる影
響が出てしまいました。

近年、地球温暖化による気候変動
や終息を見ない新型コロナウイルス
感染拡大により、川西町及び置賜地
方の農作物の収穫量の減少や販売価
格低下の影響が出ており、地元農家

の方々の生産意欲低下による今後の
事業継続が危ぶまれ、JAとしても
大変危惧しております。

その様な令和四年でしたが、昨年
も記載させて頂いておりましたが、大
変厳しくなっております。農業情勢の
昨今ですが、地元農家の皆様は、田
舎を離れご活躍されておられる東京
川西会の皆様方に今後も【安心・安
全】な農産物を提供して下さいます。
今後とも地元川西を始めとする置賜
地方の農産物をご愛顧いただきませ
ようお願い申し上げます。

結びになりますが、令和五年が貴
会の益々のご発展と皆様に幸多き年
であります事をご祈念申し上げます、新
年のご挨拶といたします。

笑い笑顔のある交流を



やまがた里の暮らし
推進機構理事長
登坂 賢治
(東沢)

明けましておめでとうございま
す。「里の暮らし」は町の外郭団体とし
て、交流人口や関係人口の拡大を目
指した事業に取り組み併せて情報発信
を積極的に行いながら川西のファン
増加を図っています。東京での「豆
の展示会」事業などに、東京川西会

の会員の皆様にもお出で頂き誠にあ
りがとうございます。

地元川西でも、農業体験や田舎暮
らし体験事業で、旬の美味しい物を
季節感と共に伝えられるよう事業に
取り組み、自然豊かな地域の景観や伝
統ある風習、ゆっくり流れる時間、
やさしい笑顔の住人など、町の
魅力をいかに表現できるか結構難題
です。事業の中で来町者の目を通し
て、その素晴らしさを改めて気づか
される事がとても多いのが驚きです。

過日、東京北区での交流事業のお
り、近くの商店街の役員をされてい
る方から声を掛けて頂き「我が商店
街でも何か出来ないかな」とのお話
でした。都会の商店街でもそれなり
の地域づくりの悩みがあるのかなと
改めて気がつきました。こちら側の
一方的な思いや売りたい物での開催
ではなく、相互に理解協力しあえる
内容を話し合える場や、事前協議を
踏まえた共催が理想に近づける一歩
かなと考えさせられました。「まち
づくりの幻想」に惑わされることな
く、道徳と経済が両立出来る、笑い
と笑顔のある取組みにして行きたい
ものです。

今後、皆様のご協力を宜しくお
願い申しあげます。

川西町の最新情報

川西町地域振興拠点施設整備

基本設計が完成

はじめに

町では、中心市街地のにぎわい
創出を図るため、旧役場庁舎等跡
地に新たな拠点施設を整備する計
画を進めております。この度、施
設整備の概要を示す基本設計が完
成しましたのでお知らせします。

設計コンセプト

まちの中心に新しい川西の原風景
をつくる

「ひと・もの・ことが
集まる「にぎわいの丘」」

地域のまちづくり機能・交流学
習機能・観光拠点としての情報発
信案内機能、避難場所としての防
災機能などを兼ね備えた複合施設
を計画します。

また将来にわたってまちのにぎ
わいを生み出す中心であるために、
新たなランドマークとしての象徴
性や空間利用の柔軟性、誰でも自
分の居場所を見つけられる多様性、
ゼロカーボンと雪対策を軸とした
持続可能性に配慮しつつ、次世代
につながる場所づくりを提案しま
す。

■「町民とつくる」を実現するプロセス

本計画の大きな特徴として、具体的な施設の用途を定める前から町民との対話の中で具体的なイメージを一緒に作り上げていくというプロセスがあります。この施設で生まれる「にぎわい」とは何か、そのために必要な空間とはどのようなものかを明らかにするために、計4回の町民ワークショップ（以下WSと省略）を実施しました。この基本設計はそこで得られたアイデアを全てのベースとしつつ、様々な現実的課題を解決することによって作成しています。



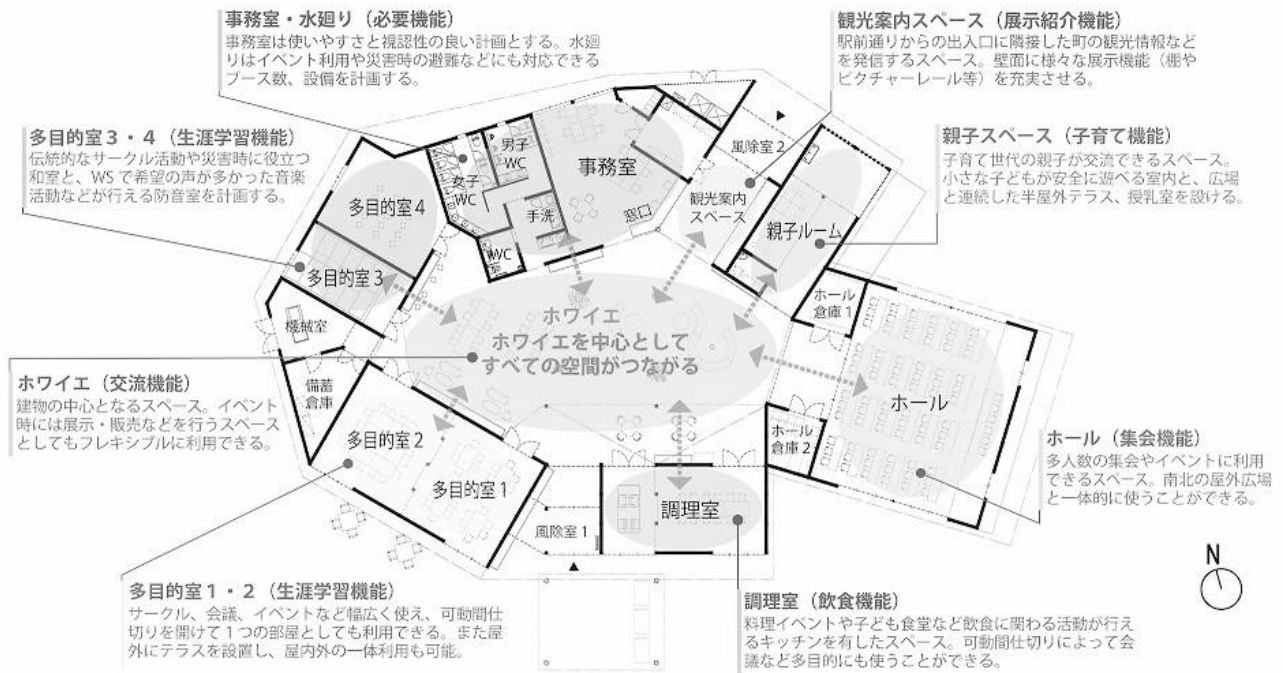
内観（ホワイエ）



外観南側



内観（ホール）



設計のポイント

■配置・駐車場計画

駅前通りに接する北東側に交流拠点となる広場、南東側にはホールや駐車場と一体的に使用できる広場、多目的室に大きなテラスを設け、施設の内外が一体となつてにぎわいをつくり出す計画とします。

施設利用者の車両出入口を南側2箇所とし、敷地内に歩行空間を設けることで歩車分離による安全性の高い計画とします。

■雪対策

南面と西面に駐車場をまとめ、効率的な除雪のできる配置とします。過去積雪統計データから、過去最大級の積雪に耐えられる除排雪計画、屋根計画とします。

■防災計画

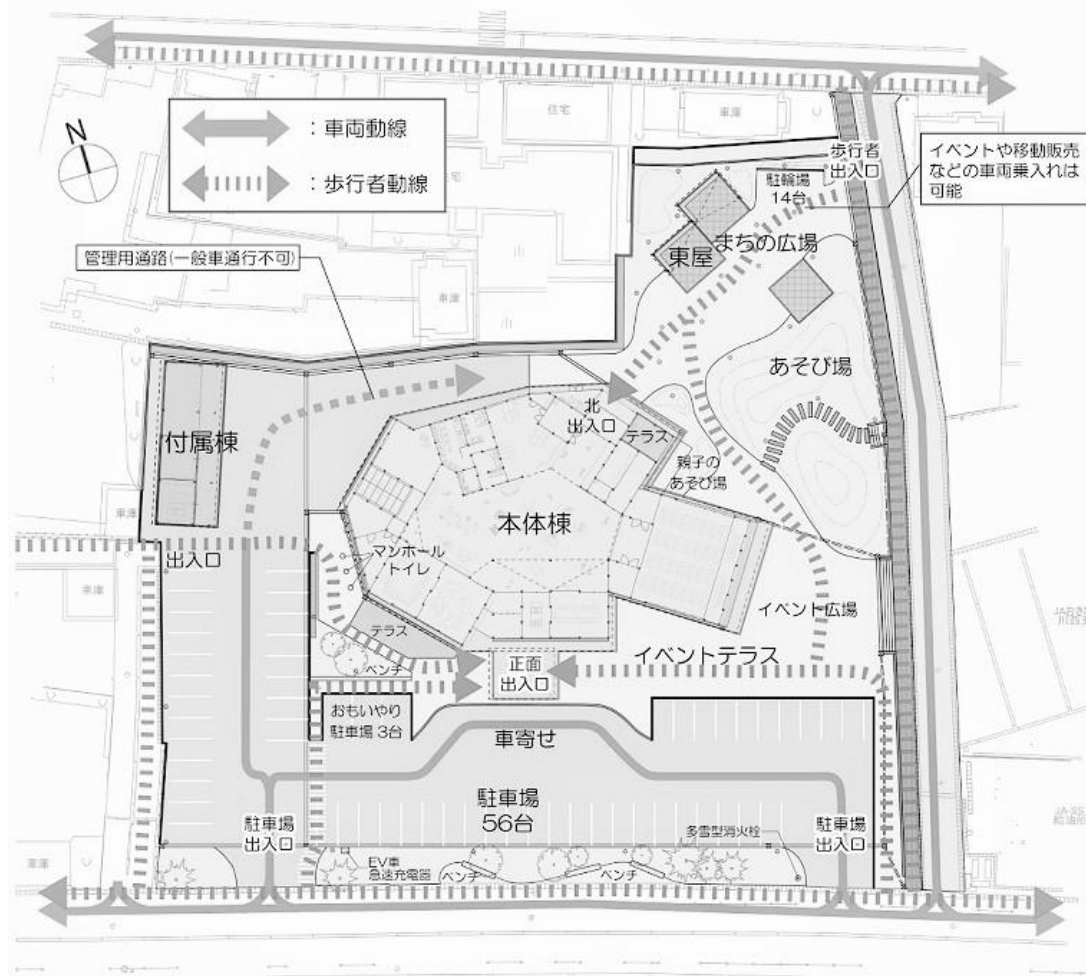
指定避難施設となる計画とし、非常用発電機とマンホールトイレを設置します。非常用発電機は、72時間の電力供給が行える容量とし、発災時の電源として活用します。一時避難想定人数は最大2百名程度とし、食料等の備蓄ができる十分なスペースを確保します。

■省エネルギー・ライフサイクルコスト削減計画

太陽光パネルや地下水を利用し、

75%以上の使用エネルギーの削減 (Nearly ZEB) を目指します。地下水利用では帯水層蓄熱シス

テムを採用し、ホワイエの空調熱源や建物周辺部の無散水融雪を計画します。



ふる里紹介

新しい拠点施設に期待

小松地区交流センター長 加藤健吉

会員の皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。コロナ、第八波、山形県でも連日、感染者の発表がなされております。これまでのコロナ対策の経験を踏まえ地域の皆様のご協力を得ながら、事業によっては規模を縮小し、小松地区まちづくり計画書に基づき活動を行っております。

小松地区公民館、現在は交流センターと名称を変えておりますが、歴史は古く、昭和二十五年に小松公会堂を公民館に改めて町職員一名が配属され活動を開始以降、中央公民館が昭和四十五年度に建設されたのを機に一室を間借りして「地域内の住民のために」のもと、地域づくりは人づくりである理念に基づき、地域の振興、町の発展に寄与する事業を展開してききました。

役場庁舎・中央公民館が耐震不足により新庁舎の建設が始まり、令和三年度に役場庁舎が移転、現在、旧庁舎・中央公民館の解体作業が始まり、令和六年度に川西町地域振興拠点施設の建設、令和七

に外構工事などを踏まえて、令和八年度に小松地区交流センターの拠点として施設に入る予定になっております。

平成三十年十二月から令和二年十二月にかけて町民による検討委員会で作くり上げた、基本方針や基本計画、さらに町民ワークショップでのアイデア、町議会からの提言を受け基本設計を作成し実施設計に進んでいきます。

川西町地域振興拠点施設の概要は建物中央にホワイエを配置し、ホワイエを囲むように事務室・水回り、観光案内スペース、親子スペース、ホール、調理室、多目的室は和室等を含め四室を確保し、全てが空間でつながる構造で廊下のない斬新な配置計画となっております。またづくり機能・交流学习機能・観光拠点としての情報発信案内機能・避難場所としての防災機能を兼ねた複合（機能）施設の計画です。屋外には、列車通学の生徒が集うまちの広場、子供たちのあそび場、イベント広場を配置。ホールとイベント広場が一体となった計画、出入口は駅前道路からと南側からの二箇所を計画、駐車場は五十六台、おもいやり駐車場の計画となっております。

屋根は落雪のない堆雪型、空調

熱源は、地下水熱利用、一部に太陽光パネルの計画です。

小松地区の拠点施設がようやく動き始めました。早期の完成に期待をしているところです。

玉庭の今

玉庭地区交流センター

四方山館館長

鈴木 孝司

今年には雪ふんねくていいことなどと言っていました。が十二月十四日中から雪まじりの空となり、翌朝は我が家の除雪機も初稼働となりました。いよいよ冬本番です。

東京川西会会員には玉庭出身の方も多くいらっしゃいますので、玉庭の今の様子をお伝えできればと思います。筆をとりました。

人口800人、世帯数200戸、保育所休園中、小学校児童数12名、少子高齢化と言われて随分たちますが、玉庭の人口減少は益々加速しています。

今地域の人たちに注目されている一つは、休園中の保育所がどうなっているのかということです。現実的には保護者の職業が多岐にわたっており、長時間保育ができる施設への入所希望が多くなってきています。また、定年が65歳までと延長にな

ったことから、祖父母が孫の子守りを担うことも厳しくなってきた感じが受けるのは自分ばかりではないと思います。町施設としてどこまで改善対応することができるか先行きは厳しいものと思います。

注目されている二つ目は、小学校の問題です。七年前に小学校学区再編について地区内で検討され、玉庭は統合しない方向に舵をとりました。しかし、昨年の暮れに保護者より児童数が減少している現状で、これからの小学校はどうなるのかと不安の声が上がります。子供を持つ親が集まり意見交換会が開かれました。結果、統合促進の要望書が四方山館に提出されました。

要望書を基に、自治会や交流センターでの説明会などを開催したところ、「統合やむなし」と、地域の意見としてまとめられました。来年、120周年の記念の年ですが、令和六年度より小松小学校への統合に向けて準備頂くよう、玉庭地区の総意として教育委員会へ依頼を出したところです。

ここ2年の間に保育所、小学校の灯が消えることになり、残念でなりません。子供たちが充実した十分な教育を受け、未来の玉庭に光を当ててくれることを期待しています。と、ここで面白い話題も一つ聞い

てください☆玉庭特産品をPR（自己宣伝）

2002年より減反対策として、生活排水の汚染を受けていない綺麗な沢水を使った淡水魚の養殖を開始。むくり鮎を生産して21年目になりました。甘い秘伝のたれに絡めた郷土料理”むくり鮎”カルシウムはいなこの3倍ですので健康食としてもお勧めです。どうぞぐつとごえ♡最後に、会員皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

会員の広場

近況のご報告



草加市在住
石山 貞二
(中郡)

地球温暖化とは言え師走のこの暖かさ。会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。

長引くコロナウイルス感染拡大が収まるところなく、三年前までのあの楽しみも過去の様になりましたね。自分も、友達の声を聞きたく電話をするが、最後は「コロナが収束したら又お逢いしましょう」では寂しいね。

十月十日、足立区山形県人会芋煮

会にお誘い頂き、参加させて頂いたところ、総勢六十六名の参加で、美味しい芋煮を食べながら会話も弾み盛大に行われました。

十一月二十六、二十七日の二日間、山形かわにし豆の展示会を場所変わって北区岩淵町での案内が届いたので、自分は二十七日、岩淵町はどんな所か、またどなたに会えるか楽しみに出掛けてみました。十一時三十分駐車場へ車を停めて、徒歩一分程の右側に案内のテントがあり、路地奥突き当りには一杯飲みたくなるいい匂いのもつ煮込みの店があり、左側には川西町の特産品を並べたテントが所狭しと並び、客呼びのスタッフが元気良く頑張っておりました。

お店も早いせいか会員の方はまだ見えないので係の人に聞いたら、昨日事務局長の鈴木さんが来ましたと話しておりました。空は晴天、午後には客も増えるのだろうが、自分には客も増えるのだから、自分は二時間程散策して帰りましたが。一昨年は上野桜木町で元気な姿の佐藤誠さんに会えたのが、昨年七月十三日他界されたと聞き驚きました。自分より一つ若いのに残念ではありません。

会員の皆様にも令和五年は楽しい日々で有りますように期待し、互いに元気な姿でお逢いしましょう。

東京川西会発起会の思い出



足立区在住
金子 典雄
(大塚)

東京川西会発起会が昭和六十一年椿山荘で開催されました。東京川西会の由来は、当時企画課長の兄に聞いたのですが、昭和六十年は町村合併三十周年を記念して東京川西会設立が議会で採択され、名簿作成などを得て、昭和六十一年発起会にこぎつけたという事でした。当時私に兄から「東京川西会が設立されるから必ず出席するように」と連絡がありました。

椿山荘での発起会は大変な盛況でした。出席者六百人程の川西町出身者で賑わいました。

初代会長、役員など選出され、初代会長は「黒澤梧郎」画伯、事務局長には「神野民夫」氏と決定されました。初代会長黒澤梧郎画伯の乾杯の音頭で宴会が始まり、宴が盛り上がりました。余興に入ると川西町出身のプロ歌手が民謡、歌謡曲と披露して頂き、大変楽しく過ごした事を

覚えていきます。

翌六十二年、五日市町(当時)河川敷で第一回芋煮会が開催されました。開催に当たっては新宿駅西口からシャトルバスが運行され、大型バスが満車でした。

芋煮会の前夜祭が有志の方々集まりで行われ、もち米など翌日の用意をして頂きました。前夜祭には町の職員、議会の方々に参加されたようです。芋煮会には沢山の裏方のご苦労があつて開催にこぎつけたもので、感謝に堪えません。当日は沢山の参加者で賑わい、約三百人を優に超えたと思います。

当日はお天気に恵まれ、芋煮、お餅など大変美味しく頂きました。また芋煮の材料は全て地元材料を用意して頂き、無事お開きとなりました。町の職員、裏方の方々、本当に感謝です。

昨年もコロナ禍で芋煮会中止でしたが、今年こそは開催を望みます。

事務局だより

新会員の紹介

菊池 一広様 港区在住(小松)

お悔み

- 寒河江 信栄様 令和4年 5月
 - 佐藤 誠 様 令和4年 7月
 - 高橋 榮四郎様 令和4年 7月
- 謹んで哀悼の意を表し、お悔み申

し上げます。

編集後記

新年おめでとうございます。今年には各行事再開の予定です。新型コロナウイルスを吹き飛ばし、ご参加、宜しくお願いいたします。

ふる里のおみやげに

倉小塩



〒999-0121山形県東置賜郡川西町上小松 1574
電話0238(42)3044・FAX0238(42)3144

東京川西会 会報 No.九十一号
発行「アルカディアの里」東京川西会
発行責任者 会長 森 田 光雄
編集者 事務局長 鈴木 茂
TEL・FAX 048-725-3249
TEL 090-4952-3397